

点描

北海道50年の歩み—真宗同朋会運動— No.18

1994
平成6年



回収され北海道教務所「岩田文庫」に保管されている『北海道開拓と本願寺道路』の一部

北海道「開教」百年
『北海道開拓と本願寺道路』をめぐる(下)

れていた。また、北海道教区の歴史をまとめた『東本願寺北海道開教百年史』の記述について問題提起する声も挙がっていた。

しかし、これらの取り組みが『北海道開拓と本願寺道路』に反映されることはなかった。

それは同和推進本部や教区の動きが一部の取り組みに留まり、課題の共通認識には至らなかったことを示している。

本書発刊とこれらの取り組みのギャップは、「なぜアイヌ民族差別問題に取り組む大谷派がこのような書籍に深く関わっているのか」という疑問と不信を深める結果となった。

*

これらの反省も踏まえ、同和推進本部と教区は、この問題に対して連携を密にして取り組んでいくことを確認し、小冊子『北海道開拓と本願寺道路—資料による開拓の歴史—』発刊に対するアイヌ民族からの問いかけを受けて『を

作成した。そこには、「北海道開拓」が開拓者からだけの視点で捉えられた問題点やアイヌ民族にとってこの本がもたらす意味、『東本願寺北海道開拓』が現在も

差別として機能すること。また錦絵がどのように位置づけられ活用されてきたのかの検証。そして、何が願われ、私たちがなぜ必要としないことは何なのかをまとめられている。この小冊子は、アイヌ民族から提起された課題を共有すべく、同和協議会や組長等に配布した。

*

『北海道開拓と本願寺道路』は、教区、同和推進本部、ウタリ協会で協議を重ね、最終的に一般に出回ったものは回収(買い取り)することを選択した。教区内寺院に配布されたものは、一方的な回収は行わず、本書を機縁に差別問題の学習を深めていく方針を決めた。その一方で、アイヌ民族差別を大谷派に属するものとして基本的に学んでいける学習冊子の必要性が論議された。

学習冊子作成の着手には、さらに時間を要することになったが、二〇〇二年(平成14)、解放運動推進本部と教区教化委員会社会教化部門の合同で編集委員会がつけられ、学習資料集『共なる世界を願って』作成の取り組みが始まったのである。(速水 馨)

一方、北海道教区においても、教区同和協議会はアイヌ民族差別問題を正面から取り上げ、藤元正樹師『開拓』刊行や総理大臣の単一民族発言に対して要請書を提出するなどの活動も行い、第17組の

問題検討委員会の活動も生ま